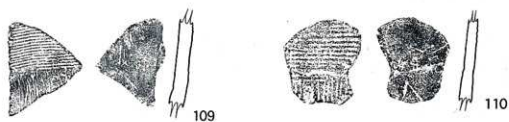
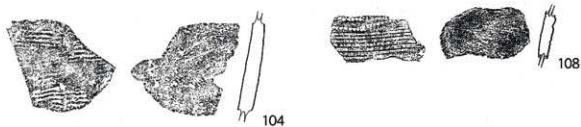
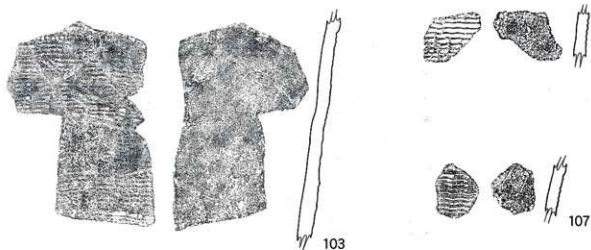


第27図 出土遺物 (11)



第28図 出土遺物 (12)

79は押しではあるが全体的に貝殻を押圧している感が見受けられる。89はわずかではあるが押しが見受けられる。90～109は主に貝殻条痕文を施しているものである。99・106は条痕文も確認できるが、中位から下位部分には貝殻の腹縁部を軽く押ししたような施文が見受けられる。104・107は条痕文がやや蛇行するように施文が行われている。109は底部付近であるが、他の土器に比べ条痕文の間隔が非常に狭く細い。また内面調整はケズリが行われている。

③底部（第30図～36図 111～145）

底部である。特徴は外面の立ち上がり部分にヘラ状の工具を用いて縦位のキザミ目を施文し、平底で平坦となる。

124・125ともに直径は約16cmである。124の底面はヘラ磨き調整が行われている。125は若干楕円形になる。126～135の底部は外面立ち上がり部分の縦位のキザミ目が長めであるのが特徴的である。126は直径約8cmで小型の土器になると思われる。縦位のキザミ目は少なくとも3cmを超えらると思われる。底面はヘラ磨き調整である。128の内面調整はケズリである。129のキザミ目は長く約6cmを呈し、底面はヘラ磨き調整である。133の内面調整はケズリである。外面のキザミ目は約3.5cmである。137は直径約23cmを呈し、非常に大型の土器の底部であろう。厚さは約2cm、底面は丁寧なヘラ磨き調整が施されている。内面はナデ調整である。

④土製品（第36図 146）

土製品と思われるものが1点出土した。最大長は約5cmで半円形を呈している。本来の完全な形は楕円形であったと思われる。

両面に貝殻腹縁部の刺突文を施している。外・内面の判断がしづらいが、仮に文様のはっきりしている面を外面と仮定すると、そこには横位の貝殻腹縁部の刺突文を8条施している。反対側の内面にもやはり同じく横位の貝殻腹縁部の刺突文を8条施しているが、施文後に指でナデ消しを行ったためか刺突文が不明瞭であり、消滅しているのが観察される。

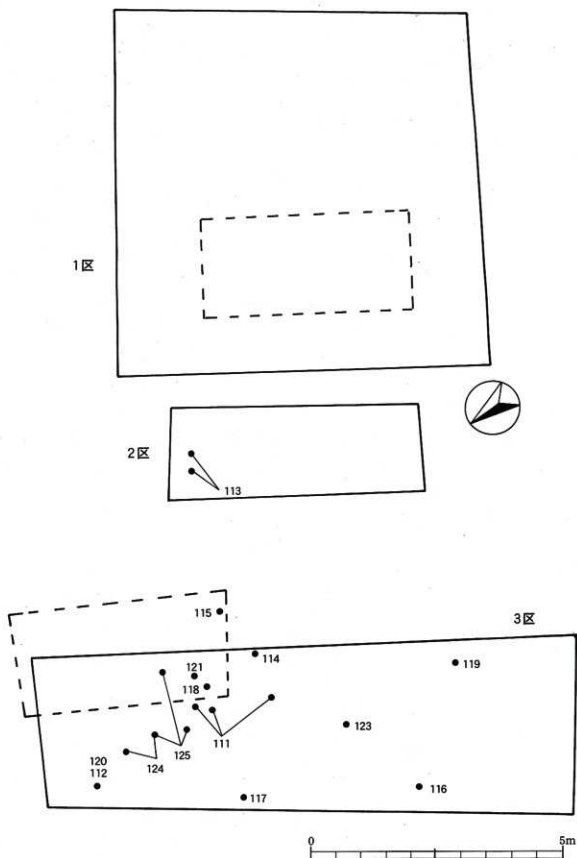
(2) 石器類

石器類は土器に比べて出土量はそれほど多くなかった。石鏃・石斧・砥石・磨石、敲石・台石・石皿類が出土している。出土層は全て第Ⅲ層である。

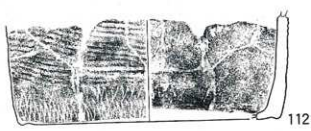
147は全面に研磨を施した石鏃である。基部に若干の挟りが入る。石材は頁岩である。148・149は磨製石斧である。刃部は丁寧に磨き上げられている。148は打撃のため一部刃部が破損している。2点並んでの出土であった。石材はともにホルンフェルスである。

150～153、156～159は磨石、敲石類である。あみかけの部分は平滑面があるところを示している。円形、楕円形、不定形なものなどがある。石材は全て砂岩である。154・155は砥石と思われる。

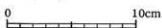
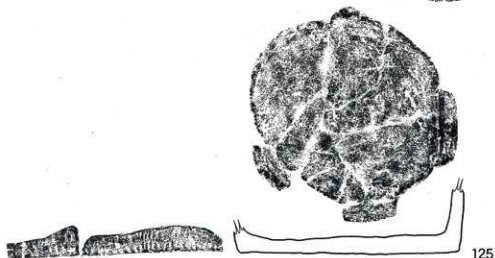
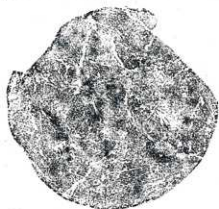
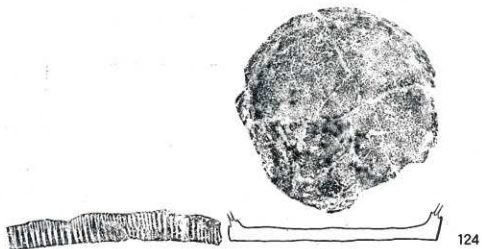
160・161は台石・石皿類である。160は5箇所打痕が見られる。161は側面部に打痕が見られ、表面には平滑面が観察される。



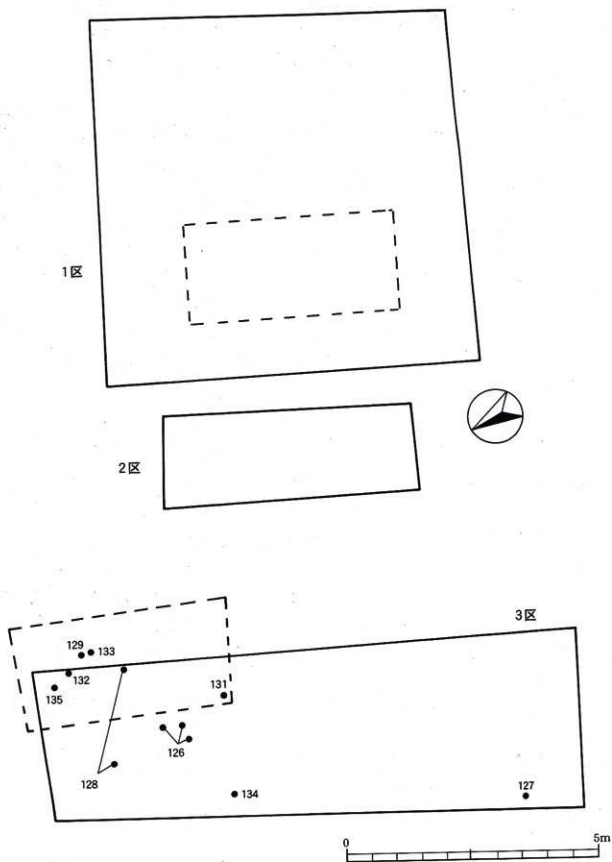
第29圖 土器出土状況(底部)



第30図 出土遺物 (13)



第31圖 出土遺物 (14)



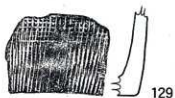
第32図 土器出土状況 (底部)



126



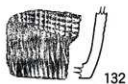
127



129



128



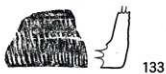
132



130



131



133



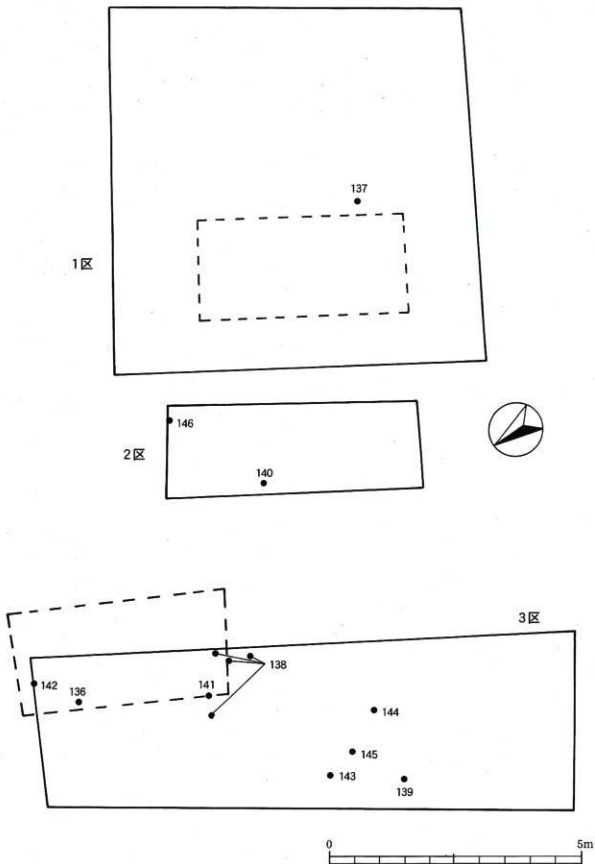
134



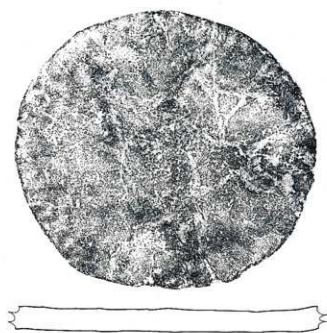
135



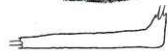
第33圖 出土遺物 (15)



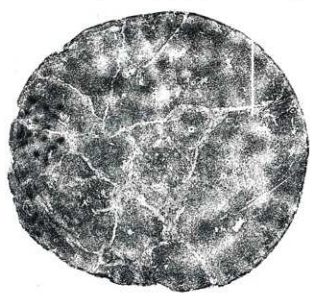
第34図 土器出土状況 (底部・土製品)



137



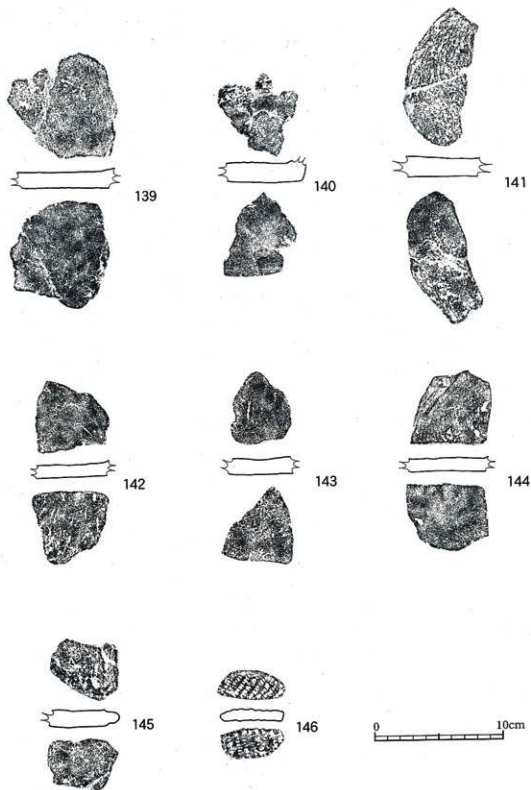
136



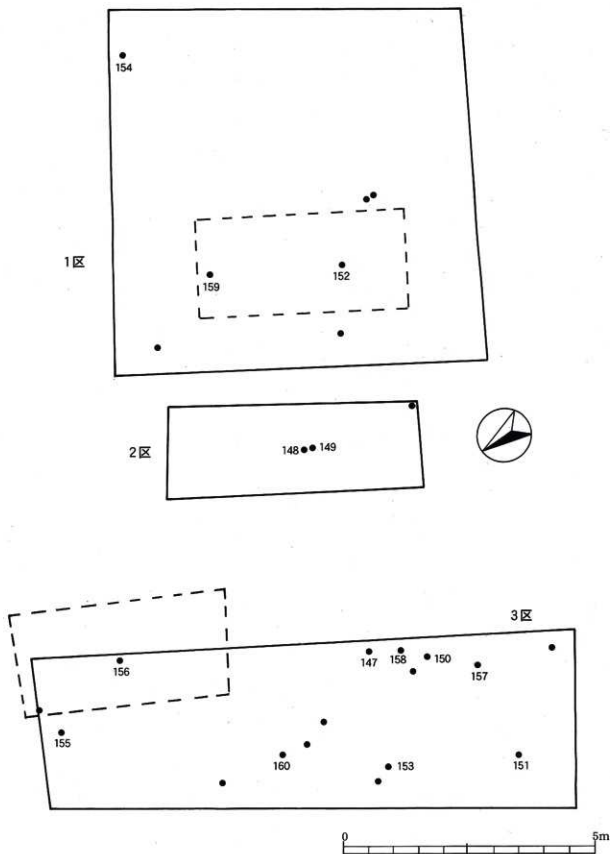
138



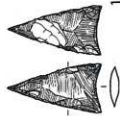
第35図 出土遺物 (16)



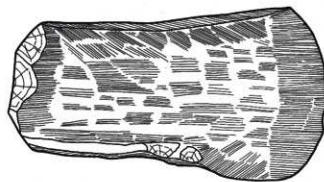
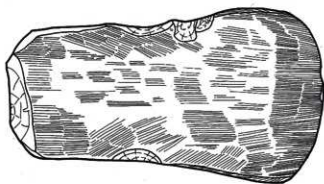
第36圖 出土遺物 (17)



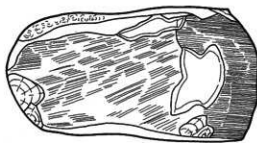
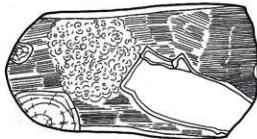
第37图 全石器類出土状況



147



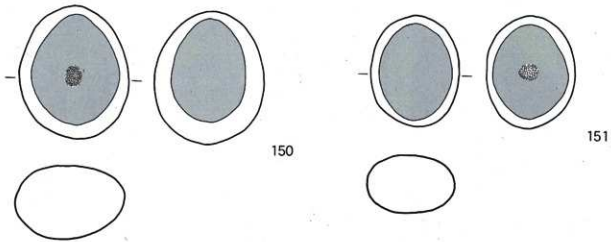
149



148

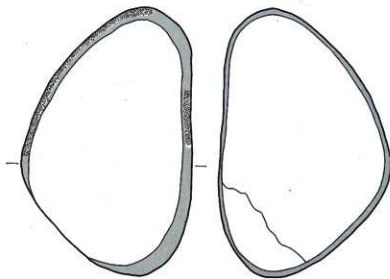


第38図 出土遺物(18)

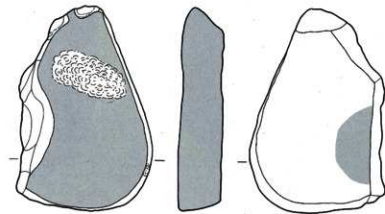
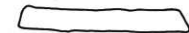


150

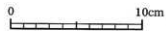
151



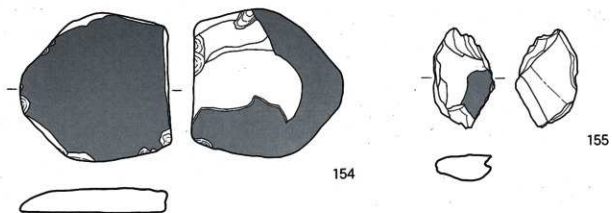
152



153

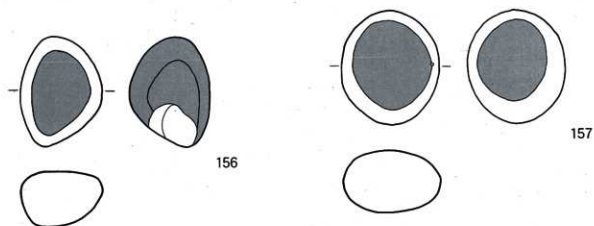


第39図 出土遺物 (19)



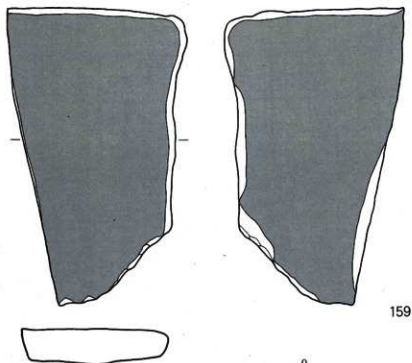
154

155



156

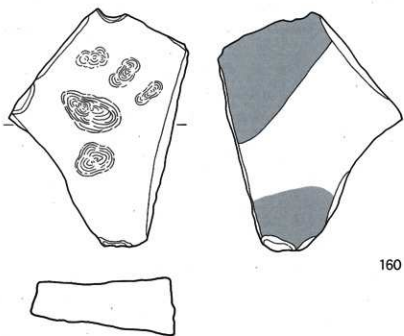
157



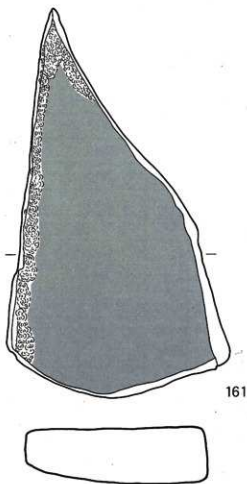
159



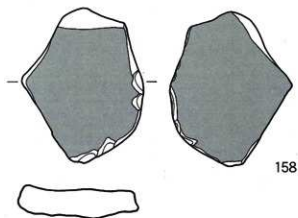
第40圖 出土遺物 (20)



160



161



158



第41図 出土遺物 (21)

第2表 土器觀察表(1)

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面		
14	1	52	Ⅲ	3区	黒褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	2	52	Ⅲ	3区	黒褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	3	一括	Ⅲ	3区	黒褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	4	340	Ⅲ	1区	赤茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・輝石・雲母	口縁
	5	339	Ⅲ	1区	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・輝石・雲母	胴部
	6	280	Ⅲ	3区	黄茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	7	175 土器集中(5)	Ⅲ	3区	黄茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	8	17・83	Ⅲ	3区	黒褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石・雲母	口縁
	9	227・97	Ⅲ	3区	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
	10	44	Ⅲ	1区	黄褐色	黄褐色	石英・長石・輝石	口縁
	11	19	Ⅲ	3区	黄茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石・礫	口縁
	12	203	Ⅲ	3区	灰黒褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・輝石・礫	口縁
	13	159	Ⅲ	3区	乳茶褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
15	14	一括	Ⅲ	3区	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
	15	96	Ⅲ	3区	黒茶褐色	茶褐色	石英・長石・輝石	口縁
	16	313	Ⅲ	3区	茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	17	土器集中(5)	Ⅲ	3区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石・雲母	口縁
	18	248	Ⅲ	3区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
	19	一括	Ⅲ	3区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	20	52・64	Ⅲ	3区	乳茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
	21	29	Ⅲ	3区	黄茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母・礫	口縁
	22	135	Ⅲ	2区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母・礫	口縁
	23	68	Ⅲ	3区	黒茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	24	216・355	Ⅲ	3区	黄茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	25	150	Ⅲ	2区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・輝石	口縁

第3表 土器観察表(2)

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色調		胎土	備考
					外面	内面		
15	26	一括	Ⅲ	1区	黒褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	27	179	Ⅲ	3区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	28	92	Ⅲ	3区	灰黒褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	29	139	Ⅲ	2区	灰黄黒褐色	灰黄黒褐色	石英・長石・砂粒	口縁
17	30	174	Ⅲ	3区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	31	145・146	Ⅲ	2区	乳茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・雲母・輝石	口縁
	32	87	Ⅲ	3区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・輝石	口縁
	33	土器集中(5)	Ⅲ	3区	灰赤茶褐色	灰褐色	石英・長石・雲母	口縁
	34	77・83	Ⅲ	3T	乳茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	35	211	Ⅲ	3区	赤茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁
	36	165	Ⅲ	3区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁
	37	160・一括	Ⅲ	3区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁
	38	17	Ⅲ	3T	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	39	282・283	Ⅲ	3区	黒茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁
	40	一括	Ⅲ	3区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
41	土器集中(1)	Ⅲ	1区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁	
18	42	95	Ⅲ	3区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	43	一括	Ⅲ	3区	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	44	30	Ⅲ	3T	乳赤茶褐色	乳赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	45	191	Ⅲ	3区	黒茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	口縁
	46	9	Ⅲ	3T	黒褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	47	58・69	Ⅲ	3区	黄茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	48	156 土器集中(4)	Ⅲ	2区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	49	149	Ⅲ	2区	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	50	一括	Ⅲ	1区	黒茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁
	51	318	Ⅲ	3区	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
	52	274	Ⅲ	3区	黄茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	53	249・289	Ⅲ	3区	乳茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	54	223	Ⅲ	3区	黄茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	55	13・21・27	Ⅲ	3T	黄茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	口縁
	56	15	Ⅲ	3T	乳茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁

第4表 土器観察表(3)

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面		
18	57	347	Ⅲ	3区	乳茶褐色	灰黄白色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
19	58	一括	Ⅲ	3区	乳茶褐色	灰黄白色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
	59	349	Ⅲ	3区	灰黄黒褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	口縁
	60	一括	Ⅲ	2区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	61	80・81・82・171	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・雲母	口縁
	62	84	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・雲母	口縁
	63	139	Ⅲ	2区	黒茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・雲母	口縁
	64	70	Ⅲ	3T	乳茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	口縁
	65	10	Ⅲ	3T	赤褐色	赤褐色	石英・長石・砂粒	口縁
20	66	12・29・20・ 344・324 土器集中(1)	Ⅲ	1区	乳赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫 ・雲母	
	67	171 土器集中(5)	Ⅲ	3区	灰黄褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	
21	68	136 土器集中(4)	Ⅲ	2・3区	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	
	69	345 土器集中(1)	Ⅲ	1区	黄茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫 ・雲母	
	70	3 土器集中(1)	Ⅲ	1区	灰黄赤褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	
23	71	149	Ⅲ	2区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	72	80	Ⅲ	3区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	73	61・84	Ⅲ	3T	灰黄褐色	乳赤茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	74	322	Ⅲ	1区	灰黄褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	胴部
	75	149	Ⅲ	2区	黒茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒・礫	胴部
	76	60	Ⅲ	3区	乳茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・礫・輝石	胴部
	77	231	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒・輝石	胴部
	78	246	Ⅲ	3区	黒茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒・礫	胴部
	79	98	Ⅲ	3区	乳茶褐色	灰黒褐色	石英・長石・砂粒・礫・ 輝石	胴部
	80	323	Ⅲ	1区	赤茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒・礫・ 金雲母	胴部

第5表 土器觀察表(4)

押垣	番号	取上番号	層	出土区	色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面		
23	81	121	Ⅲ	2区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	82	148	Ⅲ	2区	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
24	83	212	Ⅲ	3区	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	胴部
23	84	72	Ⅲ	3区	乳赤茶褐色	乳白色	石英・長石・砂粒	胴部
24	85	169	Ⅲ	3区	灰黄褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	86	206	Ⅲ	3区	赤茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	胴部
	87	213	Ⅲ	3区	灰赤茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	胴部
	88	53	Ⅲ	3T	赤茶褐色	灰黑茶褐色	石英・長石・輝石	胴部
	89	129	Ⅲ	2区	灰赤茶褐色	灰黑茶褐色	石英・長石・輝石・雲母	胴部
26	90	133・143	Ⅲ	2区	灰黄茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	胴部
	91	133・137・139 185	Ⅲ	2・3区	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	胴部
	92	21・22	Ⅲ	3T	灰黄茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	胴部
	93	272	Ⅲ	3区	黑茶褐色	灰黑茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
27	94	123	Ⅲ	2区	灰黄茶褐色	黄茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	95	139	Ⅲ	2区	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	96	213	Ⅲ	3区	灰黄茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	97	163	Ⅲ	3区	赤茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	胴部
	98	139	Ⅲ	2区	灰黄茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	99	190	Ⅲ	3区	赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	100	139	Ⅲ	2区	灰黄黑褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	胴部
28	101	256	Ⅲ	3区	赤茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	102	257	Ⅲ	3区	赤茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	103	85・76 79・200 土器集中(5)	Ⅲ	3区	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	104	253	Ⅲ	3区	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	105	126	Ⅲ	2区	灰茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	106	225	Ⅲ	3区	赤茶褐色	灰黑茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	107	一括	Ⅲ	2区	黑褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部
	108	167	Ⅲ	3区	乳茶褐色	灰乳茶褐色	石英・長石・砂粒	胴部

第6表 土器觀察表(5)

挿回	番号	取上番号	層	出土区	色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面		
28	109	201	Ⅲ	3区	灰赤茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母・輝石	胴部
	110	172	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・雲母	胴部
30	111	227・183・90	Ⅲ	3区	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	底部
	112	63	Ⅲ	3T	灰茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	底部
	113	139・144・154 土器集中(3)	Ⅲ	2区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒・雲母	底部
	114	186	Ⅲ	3区	灰茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	底部
	115	17	Ⅲ	3T	灰黄茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	底部
	116	250	Ⅲ	3区	灰黄褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	底部
	117	295	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	118	102 土器集中(5)	Ⅲ	3区	赤茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	119	215	Ⅲ	3区	灰赤茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	120	63	Ⅲ	3区	灰黄茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒・雲母	底部
	121	40	Ⅲ	3T	灰黄茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	122	一括	Ⅲ	3区	赤茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	123	235	Ⅲ	3区	灰黑褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	底部
31	124	66・68・82	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	底部
	125	18・82・91	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	底部
33	126	83・176 土器集中(5)	Ⅲ	3区	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	底部
	127	279	Ⅲ	3区	灰赤茶褐色	灰赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	底部
	128	68・75	Ⅲ	3T	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	底部
	129	41	Ⅲ	3T	乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	130	一括	Ⅲ	2区	灰乳茶褐色	灰乳茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	131	114	Ⅲ	3区	灰赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒・礫	底部
	132	43	Ⅲ	3T	赤茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	底部
	133	40	Ⅲ	3T	灰黄褐色	灰乳茶褐色	石英・長石・砂粒・輝石	底部
	134	317	Ⅲ	3区	灰褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	底部
	135	49	Ⅲ	3T	灰黄褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	底部
35	136	61	Ⅲ	3区	赤茶褐色	黑茶褐色	石英・長石・砂粒	底部

第7表 土器觀察表(6)

挿図	番号	取上番号	層	出土区	色 調		胎 土	備 考
					外 面	内 面		
35	137	51	Ⅲ	1区	赤茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	138	106・109・ 227・228	Ⅲ	3区	赤茶褐色	灰黒茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
36	139	249	Ⅲ	3区	灰茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒・礫・ 雲母・輝石	底部
	140	133	Ⅲ	2区	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	底部
	141	100 土器集中(5)	Ⅲ	3区	赤茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	142	168	Ⅲ	3区	赤茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	底部
	143	329	Ⅲ	3区	灰褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	底部
	144	241	Ⅲ	3区	灰黒茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	底部
	145	242	Ⅲ	3区	灰黒茶褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	底部
	146	一括	Ⅲ	2区	灰乳茶褐色	乳茶褐色	石英・長石・砂粒	土製品

第8表 石器観察表

挿図	遺物 番号	器 種	出土区	取上 番号	出 土 層	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	石 材	備考
38	147	石鏃	3区	240	Ⅲ	3.15	1.65	0.30	1.25	頁岩	磨製
	148	石斧	2区	128	Ⅲ	15.70	8.70	2.20	750	ホルンフェルス	磨製
	149	石斧	2区	127	Ⅲ	12.10	6.90	2.30	500	ホルンフェルス	磨製
39	150	磨石・蔽石	3区	208	Ⅲ	10.00	8.20	5.60	600	砂岩	
	151	磨石・蔽石	3区	276	Ⅲ	8.50	6.70	4.40	350	砂岩	
	152	磨石・蔽石	1区	40	Ⅲ	20.25	12.90	2.10	840	砂岩	
	153	磨石・蔽石	3区	245	Ⅲ	15.40	9.75	3.38	790	砂岩	
40	154	砥石	1区	1	Ⅲ	11.70	11.63	12.00	410	砂岩	
	155	砥石	3区	59	Ⅲ	7.20	4.40	2.10	100	頁岩	
	156	磨石	3区	75	Ⅲ	8.40	6.40	4.20	300	砂岩	
	157	磨石	3区	258	Ⅲ	8.90	7.70	4.80	450	砂岩	
41	158	磨石	3区	194	Ⅲ	11.20	8.70	2.10	250	砂岩	
40	159	磨石	1区	13	Ⅲ	23.20	14.00	3.50	1550	砂岩	
41	160	台石	3区	232	Ⅲ	16.60	12.10	4.00	850	砂岩	
	161	台石	1号 配石内	20	Ⅲ	26.70	13.20	4.15	2140	砂岩	

第IV章 科学分析

年代測定については、緊急発掘調査で2区内から出土した土器付着炭化物についてバリノ・サーヴェイ株式会社が分析を行った。以下については、表題の一部のみを変更して、各報告書の原文を掲載することとする。

鉾ノ刃遺跡出土土器付着炭化物の放射性炭素年代測定

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

鉾ノ刃遺跡は、鹿児島県西之表市の東南部、安城地区大野の台地上に立地する。本遺跡は、縄文時代早期のものと想定されており、アカホヤ火山灰層下位のベージュ色粘質土中から配石2基が検出され、吉田式土器・石斧・石鎌・磨石・蔽石・台石等が確認されている。今回の分析結果では、出土した土器に付着した炭化物を対象に加速器による放射性炭素年代測定（AMS法）を実施し、年代資料を得る。

1. 試料

試料は、土器付着炭化物（2区内一括取上げ土器片）1点である。試料の詳細は結果と共に表1に表す。

2. 分析方法

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法で実施する。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、年代測定は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正はRADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

3. 結果

同位体効果による補正を行った測定結果を表1に示す。補正年代は $9,230 \pm 50$ BPを示す。

暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。なお、較正曲線は北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。測定誤差を σ として計算させた結果、calBC8,543-8,346である。

表1. 放射性炭素年代測定結果

試料名	試料の質	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	測定年代 BP	Code.No.
2トレンチー括土器片	炭化物	9230 \pm 50	-25.33 \pm 0.89	9240 \pm 50	IAAA-50458

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代順に換算した値。

表2. 暦年較正結果

試料 番号	試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)			相 対 比	Code.No.
			σ	2σ			
1	2トレンチー括 土器片	9231 \pm 53		cal BC 8,543 - cal BC 8,505	cal BP 10,493 - 10,455	0.222	IAAA-50458
				cal BC 8,491 - cal BC 8,419	cal BP 10,441 - 10,369	0.424	
				cal BC 8,410 - cal BC 8,346	cal BP 10,360 - 10,296	0.354	
				cal BC 8,601 - cal BC 8,585	cal BP 10,551 - 10,535	0.022	
				cal BC 8,572 - cal BC 8,301	cal BP 10,522 - 10,251	0.978	

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

第V章 調査のまとめ

第1節 遺構

遺構は1区から配石が1基、3区から集石が2基検出された。

配石としたものは130cm×90cmの範囲内に礫が隣接する形で4点検出されたものである。検出層は第Ⅲ層である。礫の大きさは約30cmを超えるものが3点あり、礫は全て砂岩である。配された礫のうち1点(161)は台石・石皿として使用された痕跡があった。周辺及び内部からは炭化物は検出されず、下面に掘り込みは確認されなかった。検出の状況から配石としたが、用途は石器製作のための台石として利用すべく持ち込まれたとも考えられ、現段階では不明である。

1号・2号集石は3区、第Ⅲ層から検出された。1号集石としたものは60cm×40cmの範囲内に礫が集中して4点検出された。礫は全て砂岩で炎熱を受けた痕跡は見受けられない。周辺及び内部からは炭化物は検出されず、下面には掘り込みは認められなかった。検出状況から集石としたが、いわゆる調理場としては使用されていないものと思われる。2号集石としたものは55cm×50cmの範囲内に礫が8点集中して検出されたものである。何点かの礫は炎熱を受け赤化し、熱破砕が見受けられた。調理場として使用されたものと思われるが、周辺及び内部からは炭化物は検出されなかった。

住居址・竪穴状遺構・土坑などの生活遺構は検出されなかったが、土器が集中(密集)して出土した地点が5箇所ある。「第10図～12図 土器集中出土状況(1)～(5)」全ての集中出土地点において遺構の検出に努めたが、プラン等は把握できず検出されなかった。調査面積が極めて狭小であったことも確認できなかった要因の一つかも知れないが、その出土状態から生活遺構内遺物の可能性も残る。

第2節 遺物

土器の大部分は口縁部に貝殻腹縁部を用いて横位の刺突文を数条施し、口唇部は平坦となり連続する縦位のキザミ目を施す。胴部は貝殻押引文・貝殻条痕文を施文し、底部は平底で平坦となり、外面の立ち上がり部分にヘラ状の工具を用い縦位のキザミ目を施文するものである。これらのことから、吉田式土器の範疇に入るものと思われる。

器形は口縁部が波状を呈するもの、レモン形、平口縁と3タイプがあり胴部は円筒形である。波状・レモン形は西之表市の日守遺跡「西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)」からも出土しており、波状・レモン形が定着していたことが考えられる。

初見の土器も出土した。1～3は口縁部に縦約2cm、幅0.7cmの楔状の突起を約1cm間隔で全体に施すもので、この突起は両サイドから木の突と思われるものを押し当てて施されている。吉田式土器には楔を有するものもあるが、この楔を模したバリエーションの一つなのか全く別のタイプのものなのか、類例がないため判断できなかった。今後資料の増加を待って慎重に検討していかなければならない。

4～5は口唇部は平坦となるがキザミ目は施しておらず、口縁部には横位の貝殻腹縁部を用いた数条の細かい刺突文を施し、その下位には横位に幅約1cmの凸帯文を全周に巡らしている。この凸帯文上には半莖竹管状の工具を用いて連続に細かく施文を行っている。凸帯文下位から胴部に向け

ては横位の貝殻縁部を用いた細かい刺突文が2～3条続きその下位には貝殻押引文、貝殻条痕文が続くと思われる。器形は浅鉢になる可能性もある。この類の土器は2点のみの出土である。吉田式土器と大きく異なるのは全周に凸帯文を施している点である。吉田式以降に続く下剥峯式土器には貝殻刺突文を全体に施し口縁部付近に瘤状の突起を有するものがある。施された凸帯文はこの下剥峯式土器の初期のバリエーションとも考えられるが、胴部に貝殻押引文・貝殻条痕文を施していることから下剥峯式土器の範疇には入らず、むしろ吉田式土器の範疇に入るものである。従って、吉田式土器と下剥峯式土器の過渡期に位置する土器とも考えることができるが、今後の類例が増加するのを待って検討していかねばならない。

石器では磨製石鏃が1点、磨製石斧が2点、他数点の砥石、磨石・蔽石類、石皿・台石類が出土した。石材は磨製石鏃が頁岩、磨製石斧がホルンフェルス、他の石器は大部分が砂岩である。

土器の出土量に比べ、石器の出土量は極めて少ない。出土石器の半数は3区からの出土である。

第3節 総括

遺跡は標高約120mの台地に形成されている。周辺で標高が最も高い地点であり、東側には太平洋が見渡せ、東西南北非常に見晴らしのよい場所である。また周辺には縄文時代早期の東前平遺跡・芦野遺跡・日守遺跡など縄文時代早期前葉の遺跡があり、谷を挟んで北西には縄文時代草創期の鬼ヶ野遺跡を望むことができる。鉾ノ刃遺跡の南側には大川田川が流れ、遺跡の周辺には湧き水もあることから水の確保には苦労しなかったであろう。

出土土器(2トレンチ一括 吉田式土器)の付着炭化物の年代測定では暦年較正補正年代で9231±53(BP)、暦年較正年代では10,551～8,301年(cal BC略)が出ている。縄文時代早期前葉の年代を示す。今後も資料を増加し検討していかねばならない。

出土遺物のほとんどが土器片である。主体となる土器は吉田式土器で、口縁部の形態により波状・レモン形・平口縁となるものが確認されている。胴部の器形は円筒形で角筒は含まれていない。波状・レモン形は近年の発掘調査で報告例が増加してきており、本市においても日守遺跡でこれらの土器の報告例がある。また、吉田式土器の特徴である押引文を施しながら、口縁中に横位の凸帯文を有する土器片が出土した。凸帯文は吉田式以降に続く、石坂・下剥峯式土器に見られる、瘤状突起の祖形となるものなのか興味深い資料である。吉田式以降に続く土器の過渡期に相当するものであると考えられるが、今後の類例の増加を待って検討していかねばならない。

石器は磨製石鏃、石斧、砥石、磨石・蔽石類、台石・石皿類が出土している。石核・剥片・チップ類は出土していない。土器片に比べ石器類の出土は少なかった。石器から狩猟、採集生活を行っていたことが考えられる。

調査面積が狭小であったが、遺構が3基検出され、600点を超える土器の出土量があり、遺物の分布量はかなり密であった。今回の調査では生活遺構は検出されなかったが、遺物の出土量、土器集中地点の遺物の出土状況から調査区外に住居址・竪穴状遺構・土坑などの生活遺構が存在する可能性が十分考えられる。

遺跡が一時的な逗留地として使用されたのか定住生活地として使用されたのかは、それを証明する資料が明確でなく判断できなかったが、種子島の縄文時代早期前葉の土器を考える上で興味深い資料を呈した遺跡である。

写真図版



調査状況 (1)

図版 2



調査状況 (2)



1号配石



1号集石

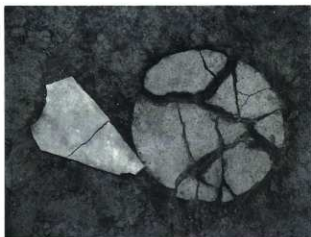


2号集石



土器集中出土状况 (1)

图版 4



土器集中出土状况 (2)



土器集中出土状况 (3)



土器集中出土状况 (3)



土器集中出土状况 (4)



土器集中出土状况 (5)



土器集中出土状况 (5)



遺物出土状況 (1)

図版 6



遺物出土状況 (2)

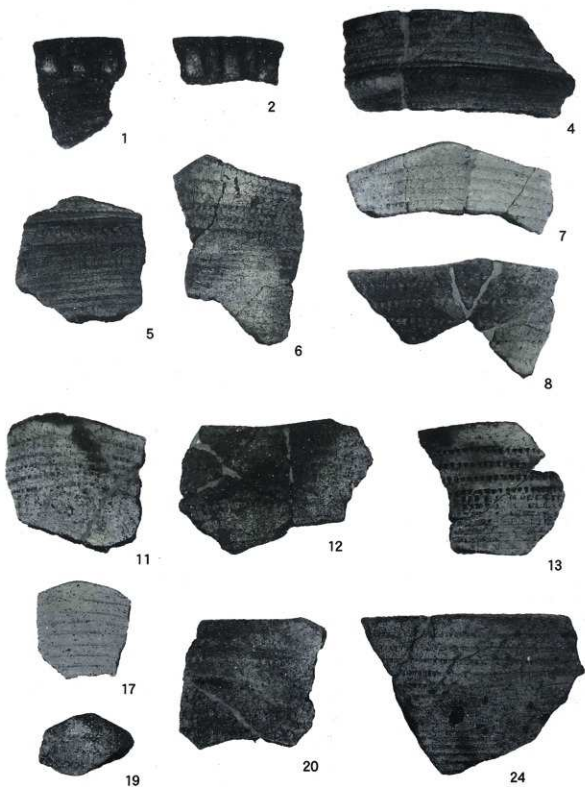


遺物出土状況 (3)

圖版 8



遺物出土狀況 (4)



出土遺物 (1)



30



31



33



34



36



37



40



47



44



48

出土遺物 (2)



49



51



55



56



61



62



67



66

出土遺物 (3)



69



70



68

出土遺物 (4)



71



72



73



74



75



76



78



80



85



86



87



88

出土遺物 (5)



90



91



92



95



96



98

出土遺物 (6)



103



109



108



100



111



112

出土遺物 (7)



113



114



115



116



125



124

出土遺物 (8)



126



128



132



129



134



133



131



130

出土遺物 (9)



137



142



141



144



138



139



146

出土遺物 (10)



147



148



149

出土遺物 (11)



155



151



156



150



157



154



158



160



153



152

出土遺物 (12)



159



161

出土遺物 (13)

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書 (15)

鋤ノ刃遺跡

発行日 平成18年2月
発行 鹿児島県西之表市教育委員会
〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地
TEL 0997-22-1111
印刷 (有)種子島新生社印刷
〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表16736-1
TEL 0997-22-0476